

おらDoの協Do!

～人と人が集まり、出会いとつながりが
広がる中で生まれる「おもっせえ」おうち～

協働による地域・まちづくりを実践し、
人と人との出会いやつながりを生み出
している「おもっせえ」人や活動を紹
介します。みんなやっべし協働!

一針一針に思いを込めて 十人十色 刺し子模様

令和5年11月17日(金)、おしゃつちで「大槌刺し子」による、干支の刺し子タペストリーワークショップが行われました。大槌刺し子メンバーを含む11人が集まり、2024年の干支「辰」の模様が描かれたタペストリーづくりを楽しみました。平成23年から大槌刺し子スタッフを続けている佐々木加奈子さんは「日本の伝統手芸の刺し子を多くの人に知ってほしい。大槌町に刺し子を根付かせたい」と思いを語ります。

大槌刺し子は、東日本大震災から2カ月後の平成23年5月に、ボランティア5人の「避難生活を送る女性たちに生きる希望を取り戻してほしい」という願いから、「大槌復興刺し子プロジェクト」として立ち上げられ、公民館や体育館、仮設住宅の集会所などで活動を始めたのがきっかけ。震災から13年が経過した今でも、年2回程度のワークショップの開催、ふるさと納税返礼品やオンラインショップでの販売など、多岐にわたって活動しています。この活動が、社会福祉の分野で創造的な業績をあげたと認められ、令和5年12月11日(月)に「読売福祉文化賞」を受賞しました。



皆さんには、お母さんが一針一針手縫いした雑巾を手に、新学期を迎えた思い出はありませんか。佐々木さんと、もう1人のスタッフの黒澤かおりさんは「自分が作ったものは世界に一つしかなく、人それぞれの作品ができる」「誰かを思い、祈って、ものを作る魅力がある」と刺し子の魅力を語ります。1つのことをきっかけに集まった仲間と一緒に活動をする「テーマ型」コミュニティが、協働に欠かせない人のつながりを作りだしています。



「読売福祉文化賞」の受賞に喜びの表情を見せた黒澤かおりさん(左)と佐々木加奈子さん(右)

皆さんも一緒に日本の伝統手芸「刺し子」をやってみませんか? 興味のある人は、是非ともご連絡ください! 内職さんも随時募集しています。

大槌刺し子 Tel.0193-55-5368
(運営: 認定NPO法人テラ・ルネッサンス)